

春期収穫をめざしたキャベツの検討会を開催

4～5 月に収穫するキャベツは、前年の 8～10 月に種まきをし、生育中に厳寒期をすごすため、収穫可能な大きさに生長するまでに「とう立ち※」が発生したり、キャベツの大きさが揃わないといった課題があります。そこで、収量・品質ともに安定して生産することが可能となる品種の選定と、栽培技術を確立するための研究をしています。

4 月 6 日には普及センターの協力のもと、関係機関や生産者を対象に検討会を開催しました。作期による球肥大の違いや球の外観、内部品質を確認し、4 月出荷実現の手応えを感じてもらっているようでした。今後もこのような取り組みを続け、産地の作期拡大につなげていきます。

※ とう立ち：薹(とう)（花をつける茎）が伸びること。薹が立つこと。



熱心に意見交換する生産者

農 林 セ ン タ ー （ 丹 後 農 業 研 究 所 ）